

2016年8月発行

安房普及だより

〒294-0045 千葉県館山市北条402-1 TEL:0470-22-8132 FAX:0470-22-0097

ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-awa/index.html>

発行：安房農業事務所改良普及課・安房農林業振興協議会普及事業部会



写真1 盛り上がるワークショップ



写真2 男性もアレンジにチャレンジ！



写真3 チーバくと一緒に(県庁ロビー)



写真4 オリンピックに向けてのPR

昨年、県庁でひまわりの展示を行いました。今年、館山市神戸花卉生産組合と合同で新たにトルコギキョウの展示を行いました。その際、副知事を表敬訪問し、東京オリンピックに安房の花を使って欲しいと熱い思いを伝えられました。(写真3、4)

当事務所では、3月に策定された「千葉県花植木振興計画」に基づき、今後とも安房の花を盛り上げていきます。

「花きの振興に関する法律」が施行されて一年以上経過しました。その間に始まった管内の主な活動を紹介します。

JA安房花卉部は、フラワーアーティストとして活躍中の長渕悦子氏を招いて、同団体では初めてとなるワークショップを開催し、需要の拡大を行いました。(写真1、2)

盛り上がり！ 安房の花

花き生産者必見!

「花が病気かな?」と思った時に見るホームページ紹介

栽培中に、株が枯れたり黒い斑点が出たり・・・心配な症状が発生して病気かな?と思う事はありませんか?そんな時に、手軽に原因を調べることができるホームページを紹介します。

それが「花き病害図鑑

(<http://www.naro.affrc.go.jp/flower/kakibyof/>)です。

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構野菜花き研究部門が運営しており、各県の病害担当者が随時更新してきます。そのため、情報の正確さと豊富さには定評があります。植物別に検索でき、写真が豊富なので症状から自分で原因を調べることが出来ます。更に、伝染方法や、発生しやすい時期などの情報も掲載されており、対策の参考



症状の写真が豊富でわかりやすい
ホームページ(「花き病害図鑑」より)

食用ナバナの移植栽培

安房地域の食用ナバナ栽培では、田畑に直接に種を播く「直播栽培」が中心です。

しかし近年、播種期である9～10月に大雨や台風が多く、発芽不良等の被害が発生しています。

そこで、ハウス内で育苗してから田畑に植える「移植栽培」を紹介します。

1 播種

128穴セルトレイに培土を均一に充填し、1穴当たり1～2粒を播種します。2粒の場合、後日に間引きます。

播種後は、新聞紙等で被覆します。発芽したら、速やかに新聞紙等を剥がしましょう。

2 育苗の場所

セルトレイは、コンテナやタルキ等を活用した架台に設置します。

地面に直接並べると、湿害が発生しやすくなります。

3 育苗の管理

1日1回程度かん水します。日中に乾燥する場合は追加してかん水しましょう。

4 育苗日数

本葉3枚程度を目安に、植え遅れないように定植します。8～9月播種で15～20日、10月播種では20～25日が目安です。

5 定植

苗に十分にかん水を行った後、適正な株間で定植します。定植後は、活着するまで、適宜かん水を行いましょ。

6 省力的な病害虫防除

根こぶ病を防除するランマシロアブラや、コナガ・ハスモンヨトウ等を防除するジユリボフロアブル等を苗にかん注して定植することで、省力的に防除ができます。

※両薬剤とも、直播では使用できません。詳細は、事務所までお問い合わせください。

果樹類におけるカミキリムシ

類対策

安房地域では、びわや柑橘類、いちじくなど様々な果樹が栽培されていますが、カミキリムシ類の被害により枯死することが多いため、注意が必要です。

【びわ】

びわを加害するカミキリムシは主にクワカミキリです。成虫は体長が約4cmの大きなカミキリムシで、灰黄褐色をしていて長い触角をもっています。

産卵は6～9月にかけて行われ、主に直径1.5cm程度の枝（3～4年生）に産卵することが多いです。孵化した幼虫は枝の中心部に向かって食害し、2年間枝の中で過ごした後には樹の中で蛹になります。

【柑橘類】

柑橘類を加害するカミキリムシはゴマダラカミキリです。成虫は体長3cm程度の大きなカミキリムシで、濃い青地に白い斑点を散らした特徴的な外見をしています。

産卵は5～9月に行われ、6～7月が最も多いです。また、成木よりも10年程度の若木に被害が多いのが特徴です。産卵場所は樹幹の地際から60cmまでの間が多く、孵化した幼虫は形成層を斜めにらせん状に2年間食害します。そのため、幼虫の防除を実施しないと樹が枯死します。

【いちじく】

いちじくを加害するカミキリムシは主にキボシカミキリとクワカミキリです。

キボシカミキリは体長約2～3cmで全体が灰黒色で、大小多数の黄斑点があります。

産卵は6～9月にかけて行われ、樹幹や主枝に産卵します。孵化した幼虫は樹の中を食害し、橙黄色の木くずや糞をします。

一方、クワカミキリは結果枝に産卵します。孵化した幼虫は樹の中を主枝に向かって食害し、ところどころに小さな穴をあけ、粉状の糞が排出されるとともに、その穴から樹液も染み出て、樹幹が茶褐色となります。

【防除方法】

木くずが確認されたらすぐに針金等で幼虫を殺すか、園芸用キンチョールEを用いて防除を実施します。

また、バイオリサ・カミキリスリムを主幹部に巻きつけることで、成虫を予防することが可能です。

「デコポン」の名称使用について

「デコポン」とは、品種「不知火」のうち一定の基準を満たした果実が使用できる登録商標です。その商標は、熊本県果実農業協同組合連合会が所有しています。

「デコポン」で販売するためには、次の2点を満たしている必要があります。

1 糖度13度以上、酸度1.0以下の果実であること

2 日本園芸農業協同組合連合会と商標権再使用契約を締結した農協から出荷された果実であること

千葉県内の農協は、日本園芸農業協同組合連合会と商標権再使用契約を締結していないため、「デコポン」での出荷・販売は出来ません。直売所等で販売する際には、品種名の「不知火」で販売をしてください。

安房地域の

若手農業者を紹介

鴨川市 高梨裕市さん

今回は、鴨川市横尾で肉用牛肥育経営を行っている高梨裕市さんを御紹介します。

裕市さんは現在就農7年目で、家族とともに和牛肥育に従事し、年間約160頭を出荷しています。

鴨川市の豊かな自然環境の下、和牛をこだわりの飼料と綿密な飼養管理によって大事に育てており、肉用牛の共進会で数々の賞を受賞されています。

高品質な和牛生産を目指す「かずさ和牛研究会」に所属すると同時に、全国の生産者らとともに飼料を統一とする「名人和牛」のブランドも持っています。

融点が低くあっさりとした脂質が特長的な高品質な牛肉を生産し、千葉県内の食肉卸

売店を通して東京を中心に販売しています。

また、地元の方々にもこだわりの和牛を食べていただきたいの思いから、自ら積極的にホテルやレストランとの連携を深め、現在では鴨川市を中心に取り扱いの広がりを見せています。

今年からは鴨川市役所、食肉卸店とも連携し、ふるさと納税の謝礼品提供を行うなど、農業の振興だけでなく、地域の魅力発信にも貢献されています。

鴨川市の農業を支える担い手として、今後もより一層の活躍を期待しています。



高梨 裕市さん

いちじくいきいきセミナーの参加者を募集します！

昨年度に引き続き、いちじくの栽培技術を中心に学ぶセミナーを開催いたします。枝の誘引やせん定法など1年を通じた研修会です。

本格的にいちじく栽培に取り組みたい方、取り組み始めて間もない方、一緒に学んでみませんか。参加者は随時募集しておりますので、当事務所までお問い合わせください。



平成29年度千葉県農業大学校の入学募集！

千葉県立農業大学校は、農業を志す優れた担い手及び指導者の育成を目指し、広い視野を持つ豊かな人間の形成や高度な専門知識・技術・経営管理能力の習得等の教育目標を掲げ、入学生を募集します。

推薦入試の願書受付は9月30日～10月14日の期間です。試験は10月25日です。

一般入試の願書受付はA日程12月9日～22日、B日程1月30日～2月10日の期間です。試験日はA日程1月13日、B日程2月23日です。

※詳細等のお問い合わせは、直接左記までお願いします。

千葉県立農業大学校

所在地 東金市家之子 1059

電話 0475-52-

5121